

中学校社会科・公民的分野 学習指導案

日 時 2021年

場 所

対 象

指導者

1 単元名

現代社会の特色と私たち

2 単元目標

- (1) 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解させる。
- (2) 位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現させる。
- (3) 私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとさせる。
- (4) 単元全体を通じた観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解している。	位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現している。	私たちが生きる現代社会について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

3 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領の社会科公民的分野の「2内容」の「A 私たちと現代社会 (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色」を学習内容とする。

学習指導要領で示されている学習内容の指導順は、原則として授業者(教員)の創意工夫に委

ねられている。しかし、本単元の学習内容の「私たちが生きる現代社会と文化の特色」は、「(2) 現代社会を捉える枠組み」とあわせ、「3 内容の取り扱い イ」により、公民的分野の「導入部」に位置づけられ、公民的分野の学習指導で最初に扱うことが義務づけられている。

本単元で扱う「現代社会の特色」は、改訂学習指導要領の求める「課題解決を通して学ぶ」ことを具体化する「問題」であると同時に、公民的分野の学習全体を方向づける「問題」と「解決すべき課題」の所在のありかを示すものであると理解できる。そのため、日常生活と公民的分野で獲得する教科専門的概念を結びつけやすい教材を選択する必要がある。

そして、学習指導要領が示す本単元にかかる教育目標は、「知識」では「(ア) 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解すること。(イ) 現代社会における文化の意義や影響について理解すること。」を身に付けることである。また、「思考力・判断力・表現力」については「(ア) 少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現すること。(イ) 文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現すること。」を身に付けることである。

なお、これらの教育目標は、「位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して」身に付けることが出来るようにしなければならない。

さて、「少子高齢化」、「情報化」、「グローバル化」の問題は、相互に影響を及ぼしつつ、他の多くの社会事象と連鎖している複合的な社会問題である。

仮に、「少子高齢化」問題に注目すると、少子高齢社会と一人ひとりの暮らしとの関係性は家族生活のあり方や社会保障制度を通して具体的に捉えることが出来る。さらに、暮らしを支える労働環境や社会経済との関連、財政問題や税制度などの様々な視点から追究すべき多くの課題がある。それらの課題を学ぶ際には、一つ一つの課題を切り離して単独で扱うのではなく、相互に関連させながら多面的・多角的にそれぞれの社会事象の関係性を理解できるようにして、今後の公民的分野の学習への道案内として役割を果たせる教材の提示が必要である。

そこで、はじめに、私たち一人ひとりの日常生活が社会との関係で成り立つことを読み取ることが可能な具体的な事例や、日常生活のあり方が変遷してきたことを具体的に比較検討できる教材を提示して、生活概念・素朴概念と科学的概念の結合を図るための条件を整えたい。

次に、社会の人口構成の推移や変化を事実に基づいて理解し、現在の問題点の所在を確かめ、「少子高齢化」によって将来にどのような問題がおこる可能性があるのかを生徒が推理できる教材として統計資料を準備する必要がある。

その上で、「少子高齢化」の影響を個人として克服する方法を主体的に探究したり、国民の経済的生活への影響や社会保障制度の維持についての課題を解決方法を主体的にかつ具体的に模索できるような教材を準備する必要がある。

(2) 生徒について

公民的分野の学習に入る前に、生徒たちは地理的分野と歴史的分野でわが国の文化や経済活動の歴史性及び国際的なつながりをすでに学んでいる。その一方で、人口問題や情報化などの進展が、政治や経済的な発展、社会構造に大きな影響を与えることについて、それらを関連付けて深く学ぶことはしていない。

また、生徒たちは社会科学学習について、知識を「暗記」すれば良いと思い込んでいる傾向が強い。そのため、仮に学習過程で思考することがあっても、知識内容を理解するための「思考」に留まっていて、社会事象と自らの日常生活や将来の暮らしとの関係性を「思考する」ことのできない生徒が多く見られる。

そこで、本単元の学びを通して、自分たちが直面している現代社会の課題を正しく理解し、学んだ知識を活用して、より良い社会を形成するために、自分たちがどのように行動し社会参画すべきなのか、生徒たち一人ひとりが主体的に思考・判断して課題解決するために追究しようとする学習意欲と学び続けようとする態度を育てたい。

(3) 指導の重点について

「知識」の指導の重点は、わが国の現代の社会における少子高齢社会・情報化・グローバル化の様子と、それらが将来の暮らしに与える影響を理解させることである。少子高齢化については、近年の少子化の進行と平均寿命の伸長によって、わが国の人口構造が変化し、世界で類を見ない少子高齢社会を迎えていることや、少子化が一層進み人口減少社会となっていることを理解させたい。また、情報化については、高度情報通信ネットワーク社会の到来により、世界中の人々と瞬時にコミュニケーションをとることが可能になったことや、様々な情報が公開、発信、伝達される状況であることを理解させたい。そして、グローバル化については、大量の資本や人、商品、情報などが国境を越えて容易に移動することができるようになり、それに伴い国内外に変化が生じていること、各国の相互依存関係が強まっていること、共存のために相互協力が必要とされていることを理解させたい。

一方、「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について、多面的・多角的に考察させる。その考察を踏まえて、生徒が主体的に問題点を指摘したり、実現可能性をふまえた課題解決のための公正な方法を具体的に模索する学習活動に挑戦させたい。

ただし、本単元は公民的分野学習の「導入」であり、今後の学習のための「解決すべき課題」を明確にする「単元」でもある。そのため、少子高齢社会・情報化・グローバル化は、多くの社会事象や解決すべき課題と重層的に関連していることを理解させることも重要である。それぞれの問題点を解決する方法を探究することは容易ではないことを気付かせたい。

4 指導計画(全4時間)

単元「現代社会の特色と私たち」の構成(全4時間)。

1 時間目：持続可能な社会に向けて

2 時間目：グローバル化 結び付きを深める世界

3 時間目：少子高齢化 変わる人口構成と家族 (本時)

4 時間目：情報化 情報が変わる社会の仕組み

5 本時の指導過程

(1) 本時の目標

- ① 人口ピラミッドなどの統計資料をもとに、日本における少子高齢化の進展と、その原因を推理し説明できるようになる。
- ② 少子高齢社会における課題を発見し、その課題を解決する取り組みを調べたり、自分の取るべき行動の選択肢と理由を説明できるようになる。

本時の目標を設定した主な理由は、少子高齢社会問題の存在を知ることだけでなく、中学生が少子高齢社会問題を「自分の問題」として捉え、社会問題と自分の将来の暮らしとの関係性を主体的に思考・判断し、表現できる力を養いたいからである。

はじめに、わが国が人口減少社会を迎えて、家族との生活、学校や地域社会での生活が変容してきていることや、労働力需給や経済活動など社会活動に大きな影響が出ていること、また、医療や年金など社会保障費の負担が増大していることを理解させる。それらの理解をふまえて、少子高齢社会の課題を発見させたい。その後、国や地方自治体の対策に触れ、課題解決の困難さを感じ取らせて、「より良い社会を形成するため」には、生徒一人ひとりが主体的にどのように関わるべきなのかを考えさせる。

「少子高齢社会」は、少子化社会と高齢化社会の社会事象が重なって起きている問題である。高齢化の進行は人道的に防ぐことはできない。生活環境の向上、栄養事情の向上、戦争がなかったことなど、むしろ長寿は喜ばしいことである。「高齢社会」の課題は、高齢者の生き甲斐をどのように実現し、健康で最低限度の生活が出来る社会保障制度の維持をどのようにするかである。

それに対して、「少子化社会」による人口減少の進展は、社会構造全体の変化を招来し、社会活動全体が停滞する状況を引き起こすであろう。そのため、少子化を止めつつ、男性も女性も共に生き甲斐を感じ取れる社会をどのように実現するかが課題になる。それは同時に、中学生の個人の生き方とも直結する課題である。

(2) 本時の教材

本時では、「少子高齢社会」を資料から適切に情報を読み取り、客観的に理解し、課題の所在

を発見し、課題解決のための方法や自分が取れる行動を生徒たちが主体的に模索できるような教材群を準備したい。そして、検証する学習活動を通して資料と「対話」する場面を設定する。

まず、少子化の背景について、教科書(東京書籍『新しい社会 公民』2021年版 p.12)は、「少子化の背景には、働くことと子育てとの両立の難しさや、結婚年齢の高まりなどによる合計特殊出生率の減少があります。」としている。この説明を理解するためには、具体化して中学生が自分たちの暮らしに引き寄せて推理できる情報が必要である。そこで、働くことと子育ての両立の困難さの実情や、晩婚化の要因など少子化の原因を推理できる教材(新聞記事)を準備する。

さらに、教科書(p.12)は、「社会の変化とともに、家族の形も多様化しています。日本の家族は、戦後、祖父母と親と子どもとで構成される『三世代世帯』の割合が低下し、親と子ども、あるいは夫婦だけの核家族世帯の割合が高まりました。近年は、一人暮らしの単独世帯の割合も高まっています。また、共働きの世帯や高齢者だけの世帯が増えたことで、育児や介護を家族だけで担うことが難しくなっています。」とする。この説明文を検証する資料もなしに、そのまま読むと「核家族世帯の増加」が「三世代世帯の減少」や「育児や介護」を困難にする要因のように受け止めるおそれがある。しかし、「三世代世帯の減少」は「高齢者世帯」や「単独世帯」の増加の結果であると解釈できる。その背景には家族による高齢者介護の負担がある。これらの統計資料を扱う際には、共働きの背景を推理できる話題(高校進学率や介護の様子)を提示したい。

また、育児や高齢者介護の対策について、教科書(p.13)は「こうした世帯には、地域社会での関係が重要です。育児に不安やストレスを感じている人への援助や、一人暮らしの高齢者への声かけや見守りなど、地域に生活する人々を地域社会全体で支える仕組みづくりが求められています。災害などの緊急時に、たがいに助け合う仕組みづくりも、ますます重要になっています。」と地域住民の協力の必要性を強調する。この視点は崩壊しつつある地域コミュニティの再構築という地方自治と地域住民の暮らしの重要な論点を提示する。この点は中学生が地域社会に主体的に参画することを考えさせたい場面であり、地方自治を学ぶ際の布石としておきたい。

しかし、少子高齢化問題への対策としては、「地域社会の取り組み」だけでは不十分な視点である。少子高齢社会問題は社会構造的に生み出される「社会的弱者」を襲うだけでなく、社会全体の停滞を余儀なくする問題だからである。そのため、生徒たちが解決方法を探るためには社会的制度に視野を広げることを可能にする教材(資料)が必要である。今後の公民的分野の学習内容の展開を考慮すると、多面的・多角的な視野を養うための情報として、育児休暇制度、年金制度、介護保険制度などの社会保障制度や、財政問題や税制度などの概略を伝えておきたい。

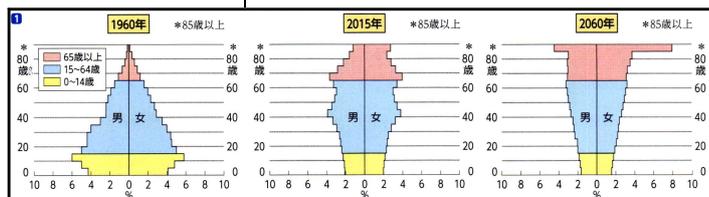
(3) 準備物

- ① 教科書『新しい社会 公民』東京書籍 2021年版 pp.12-13。
- ② 「少子高齢社会到来」「結婚のぞまない若者」を報道する新聞記事(社会科通信)
- ③ 「女性の社会進出と合計特殊出生率の関係を示すグラフ」(社会科通信)

- ④ 「男性の育児・家事労働時間を国際比較するグラフ」(社会科通信)
- ⑤ プレゼンテーション用にスライド化した教材。
- ⑥ PC及びプロジェクター。

(4) 展開

	学習活動(予想する発言内容)	教師の支援・教材(ゴシック体はキーワード)	評価・評価の方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書12頁～13頁「少子高齢化」をマル読みする(朗読・黙読)。 ○本時の学習目標を知る。 ○教科書内容の概略を聞く。 ○少子高齢社会は少子化と高齢化が同時に起こっている社会事象であることを知る。 ○本時の授業展開の流れを知る。 ○板書をノートプリントに写す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書12頁～13頁をマル読みするよう指示をする。 ○本時の学習目標の説明を簡潔に行う。「①統計資料を読み取り、日本における少子高齢化の進展と原因を推理し説明できるようになること、②少子高齢社会における課題を発見し、その課題を解決する取り組みを調べたり、自分の取るべき行動の選択肢と理由を説明できるようになることです。」 ○教科書の内容を簡潔に説明する。 ○「私たちが暮らす日本では、少子化が進むことと、平均寿命が伸びて高齢者が増加する高齢化が同時に起こっています。子どもの数が減り人口に占める高齢者の割合が高まった社会を少子高齢社会と言います。日本は世界でも類を見ないほどの少子高齢社会になっています。」 ○「今日の授業では、はじめに日本の人口構成がどのように推移してきたのかを確かめます。その後、少子高齢社会の問題と解決策を考えていきます。最後に、『少子化』を解決する方法をみんなで考えたいと思います。」 ○ノートプリントの6行目までを板書する(プリント構造・内容をそのまま板書)。この後、板書は展開に合わせて適時追加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朗読者の声を聞きながら黙読していることを視認する。 ○朗読する生徒の真横に立つように机間を移動しながら、教室全体の様子を観察する。読みにつまずきがあれば小声で支援する。 ○少子高齢社会は、少子化と高齢化が同時に起きている社会事象であることを説明できる。(知識)
	<ul style="list-style-type: none"> ○人口ピラミッドのグラフに注目する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「では、統計的に日本の人口がどのように推移してきたのかを確認しておきましょう。12頁の人口ピラミッドを見て下さい。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口構成を表す人口ピラミッドの特徴が富士山型・釣り鐘型・壺型へと推移していることを読み取ることができる。(資料活用技能)
	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の定義を確認する。(「満65歳以上の人」) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「はじめに質問。高齢者って何歳以上の人を言うのでしょうか。」 「そうですね。今は満65歳以上の人を高齢者としています。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者は満65歳以上の人であることを説明できる。(知識)



展 開	○統計上の「現役世代」と「子ども」に扱われる年齢を考える。	○「では、人口ピラミッドでは満16歳以上の人を 現役世代 、満15歳以下を 子ども として扱っています。どうしてだと思いますか。」	○統計上、満16歳以上の人を現役世代として扱っていることを説明できる。(知識)
	○1960年の人口ピラミッドの人口構成の特徴を読み取る。	○「満16歳以上は義務教育を卒業して就業つまり働きに出ることの出来る年齢だからです。」	○富士山型の人口構成は若年層が最も多く高齢者になるほど少なくなる特徴を説明できる。(知識・技能)
	○2015年現在の人口ピラミッドの人口構成の特徴を読み取る。	○「1960年で一番多い人口の年齢層は何歳くらいですか。」「そうですね。10歳代から20歳代が最も多い形です。このような形を 富士山型 と言います。」	○2015年現在は「少子高齢社会」の特徴を示す「釣り鐘型」の人口構成になっていることをグラフから読み取り説明することが出来る。(知識・技能)
展 開	○2015年現在の60歳代後半が第一次ベビーブーム世代、40歳代前半が第二次ベビーブームの世代であることを知る。(「2015年は高齢者が多く子どもは少ない」)	○「2015年現在を見ます。一番人口の多い年齢層は何歳代ですか。」「そうですね。60歳代後半と40歳代前半が多くなっています。このような形を 釣り鐘型 と言います。60歳代後半の人たちが第一次ベビーブーム、40歳代前半の人たちが第二次ベビーブームの世代と呼ばれています。子どもの数は多いですか、少ないですか。」「そうですね。2015年は高齢者が多く子どもの少ない 少子高齢社会 です。」	○2060年には80歳を超える世代が最も多くなり、50歳代以下の若年層になるほど少なくなる超少子高齢社会になることを説明できる。(知識・技能)
	○2060年の人口ピラミッドの人口構成の特徴を読み取る。(「80歳を超える世代の人たちが最も多く、50歳代以降の若年層が少ない逆三角形」)	○「2060年の人口を予想したグラフではどうなっていますか。 壺型 と呼ばれる形です。特徴はどのように説明できますか。」「そうですね。80歳を超える世代の人たちが最も多く、50歳代以降の若年層が少ない逆三角形の人口構成の 超少子高齢社会 になると予想されています。」	

なぜ、高齢者が増えるようになったのだろうか？

○高齢者が増加し続けてきた背景を推理する。(「戦争がなかった」「飢饉がなかった」「食生活・栄養状態が改善された」「住環境や衛生環境が改善された」医療技術や医薬品が進歩した」など)	○「次に、 高齢社会 の問題について考えていきます。では、質問します。どうして戦後にこんなに高齢者が増え続けてきたのでしょうか。誰か説明できますか。」	○高齢者が増加し続けてきた背景に、戦争がなかった、飢饉がなかった、食料事情が改善された、衛生環境が改善された、医療技術が進歩した、社会保障制度が整備されたことなどの条件が合わさって平均寿命が延びたことが説明できる。(知識)
○教科書12頁の「家族	○「そうですね。 戦争 がなかった、 飢饉 がなかった、 食生活・栄養状態 が改善された、 住環境 や 衛生環境 が改善された、 医療技術 や 医薬品 が進歩したなど様々な条件が合わさって 平均寿命 が延びたと考えることができます。」	
	○「では、少子高齢社会になって 家族構成 はどのように変わったのでしょうか。」	
	○「たとえば、 核家族化 と少子化は直接的に関係があるのでしょうか。 核家族 とは夫婦、夫婦と未婚の子どもで成り立つ家族のことです。 核家族化 とは核家族が増加することを言います。」	
	○「教科書12頁の『家族類型別世	

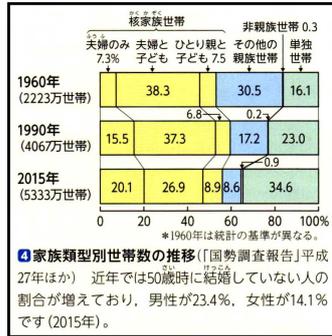
「類型別世帯数の推移」のグラフが示すデータの特徴を読み取る。

- 家族類型の推移を表すグラフから、核家族と子どものいる家族の変化を読み取る。

(「夫婦二人や一人暮らしの世帯です。」)

(「豊かな高齢者は有料老人ホームで暮らしている」「三世代が同居できる住宅がない」「転勤による転居が続く」「現役世代は育児だけで精一杯」など)

「帯数の推移』のグラフを見て下さい。核家族世帯の内では子どものいる世帯は増えていますか。」



- 「人口は減っているのに世帯数は2倍以上に増えています。増えているのはどんな世帯ですか?」「夫婦二人や一人暮らしの世帯です。高齢者だけの世帯が増えていると考えられます。」
- 「子どもが成人して独立すると高齢の親夫婦だけの核家族になります。少子化と核家族化を結びつけることは無理があるようです。」
- 「ところで、なぜ、高齢者世帯が増えるのでしょうか。」
- 「難しいですか。実は、豊かな高齢者は有料老人ホームで暮らしています。また、三世代が同居できる住宅がない、転勤による転居が続く、現役世代は育児だけで精一杯などの理由が考えられます。」

- 子どものいる世帯は、1960年の45.8%から、2015年には35.8%に減少していることが指摘できる。(資料活用技能)

- 高齢者世帯が増加している理由を推理できる。(思考力・判断力)

2055年から2060年に最も少子高齢社会の問題が大きくなると考えられます。その時、君たちは何歳くらいですか。その時の高齢者は君たちから見てどんな関係の人たちですか。

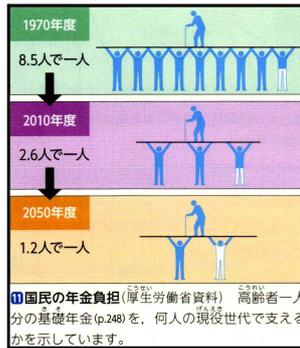
- 現在の中学生・自分たちが50歳から55歳くらいの頃には、少子高齢化問題が最も深刻になっていることに気づく。

- 少子高齢社会で起こる問題点を教科書の記述から探す。(公的年金や医療、介護などの社会保障に必要な費用が増加する。若い世代の負担が重くなる。)

- 「そうですね。今が2021年ですから、約40年後の君たちが55歳くらいの頃が最も深刻な時だと言えます。その時の高齢者は君たちの保護者です。つまり、少子高齢社会の問題が直撃するのは君たちの世代だとも言えるのです。」

- 「平均寿命が延びたことは喜ばしいことだと言えますが、教科書には、今後、さらに少子高齢社会が進むとどのような問題が起きると説明されていますか。誰か説明してください。」
- 「そうですね。医療費の増大や年金制度などの社会保障制度を維持することが困難になります。それは教科書に書かれています。」「教科書13頁の国民の年金負担の図を見て下さい。」

- 少子高齢社会の問題が最も大きくなるのは今の中学生が55歳くらいの時だと説明できる。(知識)
- 少子高齢化問題が自分たちの世代を直撃する深刻な社会問題であり、自分なりの解決方法を考えなければならぬことに迫られていることを説明できる。(知識)
- 高齢社会が抱える問題は、医療費の増大、年金制度の維持が困難になる、高齢者の日常生活の介護などがあることを指摘で



- 基礎年金について若者の負担が重くなることの解決方法を考える。(「年金額を減額すれば良い」「税金を上げる」など)
- 現行の基礎年金の支給額でも高齢者の生活は厳しいことを知る。(「もらえる年金が減ると一生涯働かないと生きていくことが出来なくなる」「死ぬまではたらくのかあー」)
- 教科書の記述内容からだけでなく、自分たちの身の回りの状況から、高齢化による問題の具体例を考える。(「デイサービスなどの介護施設のサービスを受ける高齢者が増える」「高齢者と同居していると介護に手間と時間を取られる」など)
- 少子化や人口減で起こる社会問題を想像する。(「機械で出来ない仕事で人手が足りなくなる」「医療や介護の仕事をする人が足りなくなる」)
- 「人口減で町が崩壊する」「日本の経済力が衰える」「物を作っても買ってくれる人が少なくなる」)
- 少子高齢化問題を解決できる方法を探ってみる。(「高齢者が働くことを可能にする定年

- 「今のペースで少子高齢化が進むと、2050年には1人の高齢者の**基礎年金**を1.2人の現役世代が支えるようになると推計されています。どうすれば現役世代の負担を軽く出来るでしょうか。」
- 「今現在の基礎年金額は年77万円ほどです。月額にすると6万円強です。これを減額したら高齢者の生活は成り立つのでしょうか。2人世帯の平均的**消費支出**は月額20万円を超えます。親が年金で生活できなければ、子どもに負担がさらに増えますが、それで良いですか。」
- 「それだけでなく、身の回りにあることから、どのようなことが考えられますか。」
- 「そうですね。高齢者の日常生活の**介護**も大きな問題です。」「日常生活の介護は24時間365日必要です。休みもありません。とても過酷な仕事です。」「到底、勤務しながら高齢者の介護は不可能です。」「介護サービスや特別養護老人ホームが必要になるのは、そのような事情があります。」
- 「高齢者が増加する一方で、少子化が今のまま進むと2060年の人口は8,674万人に減少すると言われています。現在より4,000万人の人口が減るとどんな問題が起こるのでしょうか。」
- 「そうですね。**人口減**で町が成り立たなくなる地域が出てくるでしょう。**生産人口**が減るので日本の国全体の**経済力**が衰えます。それだけではありません。」
- 「そうなんです。工業製品はロボットや機械で生産量を上げることが出来ますが、生産した商品を買う人が減るので不景気が続くことになります。」
- 「このように考えてくると絶望的になりますが、**解決する糸口**はないのでしょうか。たとえば、高齢者には**生き甲斐**は必要ありま

きる。(知識、思考力・判断力)

- 年金制度の維持のために年金の支給額を減額すると、高齢者の生活が成り立たなくなるだけでなく、若者の個人負担がさらに重くなることを説明できる。(思考力・判断力)
- 自分自身の生活費だけでなく、子どもの養育費や教育費、親の介護費用、さらに自分自身の老後の生活費を確保する必要があることを説明することができる。(思考力・判断力)
- 少子化が進むと人口減になり、生産力が落ち込むと同時に消費力も衰えるので経済力が衰えることを推理できる。(思考力・判断力)

制の改善」「高齢者が働けるような職場を作る」「高齢者の経験や技能を活かすことの出来る機械の開発や職域の開発」など)

せんか。介護を必要とする人ばかりではありません。現役並みに活躍できる人もいますよ。」
○「私たちは、どんな**対策**を考えることが出来るのでしょうか。」

なぜ、子どもの数が増えないのでしょうか？

○合計特殊出生率が2.07よりも低いと少子化になり人口減になることを知る。

○「では、**少子化**が起きていると何で判断するのでしょうか。」
○「**合計特殊出生率**で判断します。合計特殊出生率は15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものです。2.07よりも低いと少子化になり**人口減**になると言われています。」

○合計特殊出生率の低下によって人口減が起きることを説明できる。(知識)

展
開

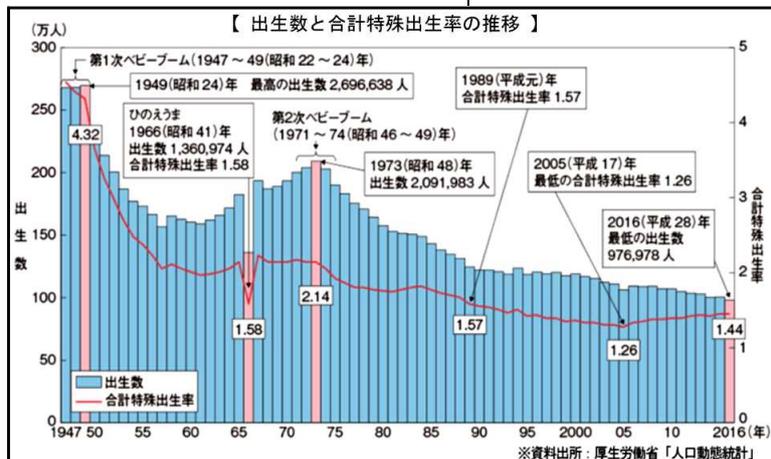
○少子化が起きる要因を考える。(「教科書には、少子高齢化社会の背景として、仕事と育児の両立の困難さと結婚年齢の高まりがあると書かれています」)

○「いつから、なぜ少子化が始まったのでしょうか。教科書にどのように説明されていますか。」
○「そうですね。教科書には、①**仕事と育児の両立**が困難であること、②**晩婚化**があげられています。さらに一般的には、**非婚化**、③**女性の社会進出**や、④**核家族化の進行**があると指摘されています。」

○少子化の背景として、仕事と育児の両立が困難、晩婚化・非婚化、女性の社会進出、核家族化の進行が指摘されていることを説明できる。(知識)

○出生数と合計特殊出生率の推移を表すグラフから、少子化の始まりと進行を読み取る。

○「では、少子化がいつ頃から始まりだして、どのように推移してきたのか統計で見てみましょう。戦後の出生数と合計特殊出生率をまとめた次のグラフを見て下さい。」



(「1973年が最後です。」)
○合計特殊出生率の低下がいつから始まり出したのを探す。

○「合計特殊出生率2.07の水準を上回っていたのはいつ頃でしょうか。」

○日本の女性の出産数が減った理由を考える。

○「1974年に2.05になり、それ以降減り続けています。ですから**少子化**は1974年から始まったのです。何があったのでしょうか。」

○1974年から少子化が始まりだし、合計特殊出生率がそれ以降回復することがないことを説明できる。(知識、資料活用技能)

○「昔は子どもを沢山産んでいた時代もありました。今でも**多産**の国があります。どうして、日本の女性は子どもを産まなくな

(「分かりません」「想像
できないです」)

○教科書13頁の『世帯
ごとの働き方の推移』
のグラフを読み取る。

(「1990年あたりから共
働き世帯の方が多くな
ってきています」)
○「共働き世帯が増えて、
男性だけが働いている
世帯が減っている」こ
とに気づく。

(「男性の給料が上がら
なくなったから、女性
も働き出した」「生活
が苦しくなった」)

(「子育てにお金がかか
る」「共働きは教育費
など子育てに必要な
資金を得るため」)

○仕事と育児の両立の
困難さや女性の社会
進出の関係を考え
てみる。

○女性の社会進出(労働
力率)と合計特殊出生
率の関係を整理した
国別のグラフを読み
取る。

○OECD加盟国の中
では女性が働いてい
る割合が高い国の合
計特殊出生率が低い
とは限らないことに
気づく。

○先進国で日本より
合計特殊出生率が低
い国の方が少ないこ
とに気づく。

ったのでしょうか。」

○「では、昔はなぜ沢
山の子どもを産む必
要があったのでしょ
うか。」「実は子ども
がお金を稼いでくれ
たのです。子どもが
多いと家計が楽にな
ったんですね。」

○「ヒントを出しまし
ょう。1970年に高
校進学率が80%を
超えるようになり、
1974年には高校進
学率が90%を超え
ました。」

○「では、教科書13
頁の『世帯ごとの働
き方の推移』のグラ
フを見て下さい。共
働き世帯は増えてい
ますか、減っています
か。」



○「どうして、1990
年から急に共働き世
帯が増え始めている
のでしょうか?」「実
は1991年にバブル
経済の崩壊があり長
期的な不景気に日本
全体が陥ったんです
ね。これはヒントで
す。」

○「そうなんです。多
くの世帯では子ども
の教育費が家計を圧
迫したと考えられま
す。」

○「教科書は共働き世
帯が増えたことで育
児が困難になってい
ています。これは解
決できないことなの
でしょうか。」

○「次の『OECD加盟
24か国における合
計特殊出生率と女性
労働力率』を見て下
さい。女性労働力率
というのは、女性の
総人口の中で労働に
ついていてる人の割
合です。高いほど女
性が働いている国
です。どのような傾
向が読み取れますか。」

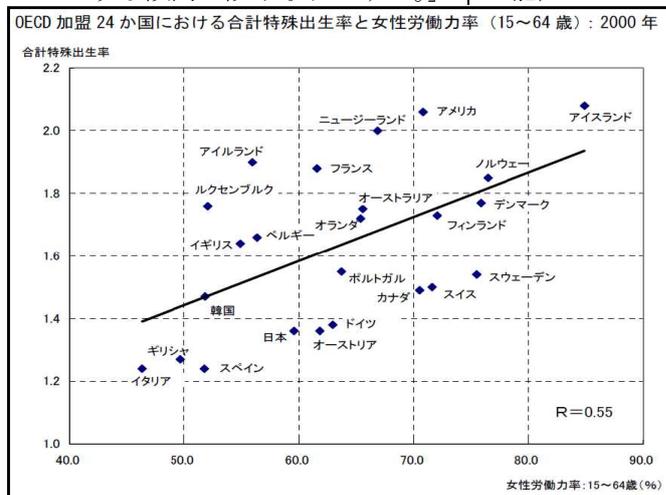
○高校進学率が80%
になった頃と合計特
殊出生率の低下の開
始時期が一致するこ
とを指摘できる。(資
料活用技能)

○1990年あたりから
共働き世帯が増加し
ていることを指摘で
きる。(資料活用技
能)

○1990年あたりから
共働き世帯が増加し
ている理由を推理で
きる。(思考力・判
断力)

○生まれる子どもの
数が減りだした理由
を推理できる。(思
考力・判断力)

○OECD加盟国の中
では女性が働いてい
る割合が高い国の合
計特殊出生率が低い
とは限らないことを
指摘できる。(資料
活用技能)



(「どちらかと言えば日本より低い国の方が少ない」)

(「ほとんどの国」)

○男性の育児・家事労働と合計特殊出生率の関係を諸外国のグラフから読み取る。

○日本の男性の育児や家事労働時間がほとんどないことに気づく。

○合計特殊出生率が日本より高い国々の男性の育児時間や家事労働時間は、日本の男性よりもかなり長いことに気づく。

(「男性が育児をすることに賛成」「育児方法を知らないといけないから良い取り組みだと思う」「保育所が足りないと社会問題になっています」など)

○保育所に預けられる子どもの立場で考えてみる。「女子差別撤廃条約」は「子どもの利益が最優先」だと唱っていることを思い出す。

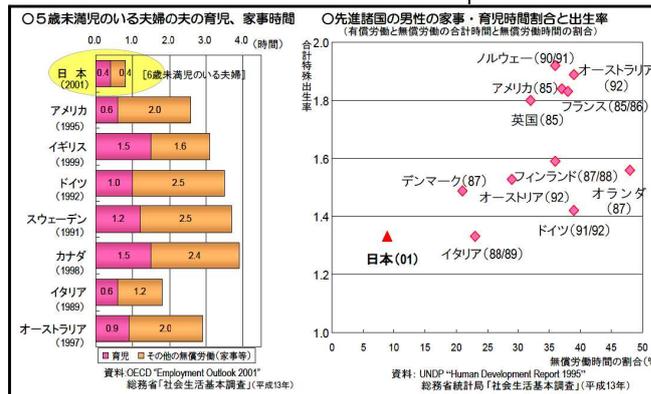
○「工業先進国は合計特殊出生率が下がる傾向があります。しかし、全ての国が低いですか。」

○「日本よりも**女性の就業率**が高いのに、日本よりも合計特殊出生率が高い国はどれくらいありますか。」

○「どうして、女性が社会進出する国で、合計特殊出生率の高い国があるのでしょうか。」

○「では、次の2つのグラフを見て、男性の**家事・育児時間割合**と出生率の関係を説明してください。」

○少子化の原因を仕事と子育ての両立の困難さだけに求めることはできないことを指摘できる。(思考力・判断力)



○「教科書では、男性に**育児方法**を教える行政の取り組みが紹介されたり、**保育所**の整備が必要だとされています。あなたは保育所についてどう思いますか。」

○「なるほど。でも、男性に育児の仕方を教えるだけでは**子育て**は実現できないでしょう。生活の枠組みが大変なんです。」

○「子育てには時間も体力が必要ですし、子どもが成長する間の**生活費**の心配があります。**教育費**は長い期間必要です。**育児休暇**や**育児手当**などの制度が確実に保障されることも必要です。」

○「**保育所の整備**は親には必要かも知れませんが、**子どもにとっては**、育ててくれるのが保育所か親のどちらが良いのかは別問題です。その議論が抜けているような気がします。『**女子差別撤廃条約**』は「子どもの利益が最優先」だと唱っています。」

○「**教育費**の公的負担があれば個人負担は軽くなります。若い人の**賃金**が上がって**労働時間**が短縮されると男性の育児や家事労働参加も可能になるでしょう。」

○「ところで、晩婚化だけを少子化の要因にするのは少し疑問があります。と言うのは、少子化

○子どもの立場に立って考えることができる。(思考力・判断力)

(「近年は50歳の人で結婚していない人が男性で23.4%、女性14.1%いると書かれています。」)

が始まった1974年の初婚年齢の平均は男性26.8歳、女性24.5歳だったからです。それが1990年には平均で男性28.4歳、女性25.9歳、2000年では男性28.8歳、女性27.0歳になりました。何が背景にあるのでしょうか。」

- 「12頁の『家族類型別世帯数の推移』のコメントには、50歳で結婚していない人がどれ位いると書いてありますか。」
- 「そうですね。結婚しないのか。出来ないのかは分かりませんが、少子化と関係がありそうです。」
- 「次に、少子化に直接的な影響を読み取れそうな情報があります。現在の日本の若者は結婚したいとあまり考えていないようです。社会科通信で紹介している新聞記事を読んで下さい。」
- 「結婚したくても仕事がきついとか、賃金が低すぎるなどの理由が多く挙げられています。」
- 「結婚したい若者を支援する場合、どんな支援策が効果的だと思いますか。授業の最後に考えてみましょう。」
- 「ここまで見てきたことを整理すると、対策のヒントは次のようになります。子育て支援策の充実、教育費の負担軽減、労働時間の短縮で家事労働時間を支援する、高齢者でも働ける社会的な制度、介護制度の充実、移民を受け入れて労働者人口を増やす方法などです。」

○非婚化が合計特殊出生率の低下に影響を与えていることを説明できる。(思考力・判断力)

○結婚したい気持ちを実現するための支援方法について具体的に説明できる。(思考力・判断力)

○少子高齢化問題の要因を改善することが、課題解決の対策になることを具体的に説明できる。(思考力・判断力・表現力)

少子高齢化問題は生きている限り必ず襲ってくる問題です。たとえば、少子化問題を乗り越えるために、「結婚したい人をどのように支援しますか」。自分がどのような方法で解決したいか、選択する解決方法と選択理由を説明して下さい。

人生100年時代を視野に入れて、グループ学習で意見交換しましょう。

○グループ学習の課題を確認する。

○ノートにメモをとりながら、自分の意見を考える。

○4人1グループの体勢になるために机の向きを変える。

○自分の意見を簡潔に分かりやすく伝える。

○自分の意見の理由と結論をキーワードだけで書く。

○顔を見て、うなずき

○「はじめに5分間は自分だけで考えて下さい。その後8分間、4人グループで意見交換して下さい。」「今日は全体発表をする時間的余裕がありません。ノートに自分の意見とグループで出た意見を記録しておいて下さい。」

○グループで話し合わせる。(8分)
・グループ学習は、原則的に1グループ4人で行う(5人以上にはしない)。

・机を向かい合わせにして、真ん中にホワイトボードを置き、自分の意見を書きながら話をするよう指導する。

・話し合いが進まないグループに

○グループの話し合いに参加できている。【形成的評価】

○それぞれのグループの話し合いがスムーズに展開されているかどうかを歩きながら確認する。【形成的評価】

○話し合いが進展しな

	<p>ながらしっかり聞く。</p> <p>○他の人の意見を批判しないで、対案を提示する。</p>	<p>は、教師が介入し、論点の一つをヒントに与える(「自分が結婚するとすれば、どんな条件が必要になるか考えてみよう」)</p>	<p>い場合は、自分が結婚するとすれば、どんな条件が必要になるかを考えさせる。</p>
終末	<p>○様々な意見があることを知る。</p> <p>○それぞれの意見が異なる視点から提案されていることを知る。</p> <p>○自分の意見と異なる意見をノートにメモをする。</p> <p>○他の人の意見を聞いて、自分の意見を振り返る。</p>	<p>○「では、時間が来ました。3つ位のグループで出た意見を聞いてみたいと思います。積極的に発表してくれませんか。」</p> <p>○積極的な発表がない場合は、任意に指名して、3つのグループで出た意見の発表を求める。</p> <p>○出た意見の要点を板書する。</p> <p>○「自分の意見と異なる意見をノートの右側にメモしておきましょう。」</p>	<p>①人口ピラミッドなどの統計資料をもとに、日本における少子高齢化の進展と、その原因を推理し説明できるようにする。</p> <p>②少子高齢社会における課題を発見し、その課題を解決する取り組みを調べたり、自分の取るべき行動の選択肢と理由を説明できるようにする。</p>

6 本時の到達度目標(評価基準)とB基準に到達しない生徒への指導計画

※ 本時については、主に「知識・技能」についての評価基準を示す。

十分満足できる(A)	概ね満足できる(B)	努力を要する(C)
<p>①少子高齢社会の意味を正確に説明し、少子高齢化の推移と背景を具体的に説明できる。</p> <p>②少子高齢化の背景として仕事と育児の両立の困難さや結婚年齢の高齢化が言われていることを具体的に説明できる。</p> <p>③少子高齢社会でおこる問題を具体的に説明できる。</p> <p>④女性の社会進出と少子化は直接的には結びつかないことを具体的に説明できる。</p> <p>⑤少子化問題を解決するには、労働時間の短縮、若者の賃金の上昇、教育費の公的扶助、育児休暇制度の拡充などの社会的な支援が必要になることを根拠を示して指摘できる。</p>	<p>①少子高齢社会の意味を正確に説明し、少子高齢化の推移と背景を概ね説明できる。</p> <p>②少子高齢化の背景として、仕事と育児の両立の困難さや結婚年齢の高齢化が言われていることを概ね説明できる。</p> <p>③少子高齢社会でおこる問題を概ね説明できる。</p> <p>④女性の社会進出と少子化は直接的には結びつかないことを概ね説明できる。</p> <p>⑤少子化問題を解決する方法を提示できるが、根拠が弱かったり具体性がない。</p>	<p>B基準の5項目の内で次の項目については、確実に説明できるように回復指導する。</p> <p>①1960年と2060年の人口ピラミッドを比較して、高齢層の割合の違いと16歳未満の子どもが占める割合が異なることに注目し、少子高齢社会の意味を説明できる。</p> <p>②少子高齢社会でおこる社会問題の概要。特に、人口減少による景気の停滞と社会保障制度の維持が困難になることが説明できるようにする。</p> <p>③少子化を解決するには社会的な支援が必要になることが説明できるようにする。</p>

7 添付資料

- ① 社会科通信「ついに少子高齢社会」
- ② 社会科通信「少子化の原因と対策を考えよう」
- ③ ノートプリント(板書計画を兼ねる)